

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (八十)

第三章 アラーの恵み―石油ブームの到来 (十七)

八十 第四次中東戦争―智将サダトの登場 (一一四)



が明らかになる時代が来る。

第三次中東戦争のあと共通の目標を見失ったアラブ諸国は内部紛争に明け暮れる。戦争直後、ソ連の後ろ盾により南イエメンに共産主義政権が成立(1967年十一月)と翌年イラクで無血クーデタが、さらに次の年にはリビアの王制が倒れカダフィ大佐が政権を握った。そしてナセルが死亡した1970年にはヨルダンでPLOとヨルダン政府が激しく対立(「黒い九月」事件)、PLOはレバノンのベイルートに落ち延びていった。さらにシリアでもクーデタが

1967年の第三次中東戦争(六日間戦争)でイスラエルに敗れたナセルが失意のうちに現職大統領のまま心臓発作で亡くなったのは1970年のことで、後を継いだのは副大統領のアнвар・サダトであった。サダトはエジプトの王制を打倒した自由将校団の一員でありでナセルの盟友であった。しかしナセルがカリスマ的指導者としてエジプト国民のみならずアラブ諸国から英雄と称えられたのに比べ、サダトはその陰に隠れて目立たない存在であった。したがってナセルを継いで副大統領から昇格した彼に対する人々の目は厳しく、いずれ他の誰かが大統領に選ばれるまでのシヨート・リリーフとしか見られていなかった。しかし彼が深慮遠謀の優れた軍事戦略家であり、同時に現実的な政治家でもあること

発生、翌年一月にはアサドが大統領に就任する。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakahazuyal@gmail.com